



Japan Display Inc.

2021年度 通期
決算説明資料

2022年5月13日

株式会社 ジャパンディスプレイ



PersonalTech For A Better World



Japan Display Inc.

2021年度 総括

- 深刻な半導体不足の逆風下、損益は大幅改善。期初からの目標であった第4四半期(4Q)のEBITDA黒字化を達成し、通期でも黒字を計上
- 世界初 超低消費電力バックプレーン技術「HMO」(3/30発表)、次世代OLED「eLEAP」(本日発表)を開発
- 世界一の透過率を有する透明ディスプレイ「Raelclear(レルクリア)」等、新分野の製品開発が進展
- 知的財産権の保護と積極的活用を促進
- いちごトラストによる新株予約権行使により資本を増強
- 台湾後工程工場売却によりアセット適正化を促進
- 資本金及び資本準備金の減少並びに剰余金の処分を実施

eLEAPは商標登録出願中です。 Raelclearは当社の商標登録です。

	戦略	KPI
事業改革	<ul style="list-style-type: none">■ 既存事業の建て直し<ul style="list-style-type: none">✓ 結果責任を持つ組織・経営体制✓ 営業・マーケティングの強化■ 収益力の徹底強化<ul style="list-style-type: none">✓ 不採算事業整理による競争力の強化✓ 多様な技術で、製品の優位性拡大	<ul style="list-style-type: none">■ 2021年度第4四半期のEBITDA黒字転換 <p>達成</p>
事業転換	<ul style="list-style-type: none">■ 新ビジネスモデル/最終製品の事業化<ul style="list-style-type: none">✓ 事業転換への挑戦✓ R&Dの事業化・収益化■ 高付加価値技術の事業化	<ul style="list-style-type: none">■ 独自のキーデバイスを軸に、サービス、ソリューション、プラットフォーム等を2021年中に複数事業化 <p>達成</p>

半導体等部材不足による生産制約に対応し、車載・ノンモバイル事業堅調

モバイル

- 主要顧客のスマホ用液晶は減少トレンドが継続し、欧米向けは前期比53%減収
- 中国顧客向けは顧客の多角化により前期比19%増収

車載

- 当社、顧客ともに半導体不足の影響を大きく受けるも、通年強い需要が継続し、前期比21%増収
- プライバシービューやヘッドアップディスプレイ等、高付加価値製品の新規受注も堅調

ノンモバイル

- ウェアラブル用OLED、超高精細VR用液晶、知財収入の増加により、前期比27%増収
- 世界一の透過率を持つ透明ディスプレイRaelclearを上市。双方向コミュニケーションツールとして自治体、難聴者、ウクライナ避難民支援等、幅広く社会貢献に資する新たな価値創造を演出
- 既存タッチスクリーンの非接触化を容易に実現する外付けホバーセンサーを上市

サプライチェーンリスク回避、新技術開発、アセット適正化を推進

R&D

- HMO技術の開発、eLEAPの量産技術確立に成功
- 「技術立社」に回帰、「世界初、世界一」の新技術、新製品開発に注力

全社

- 半導体不足影響抑制の為、長期調達やサプライヤー分散化等サプライチェーンリスク回避策を推進
- 知的財産の積極活用を推進
- アセット適正化の一環として、台湾後工程工場を売却
- サステナビリティと脱炭素化に向けた取り組みを強化。「国連グローバル・コンパクト」への署名、Apple社向け製品への100%再生可能エネルギー利用を表明

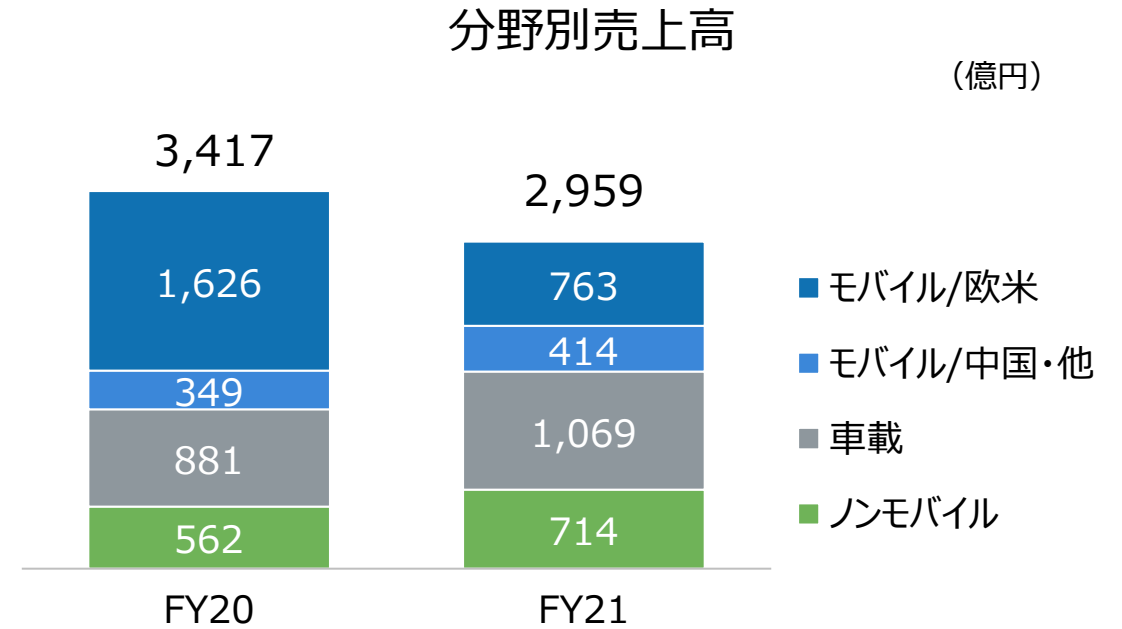


Japan Display Inc.

2021年度 業績報告

半導体不足が影響するも、製品ミックス改善、コスト削減、値上げ、円安により損益大幅改善

(億円)	FY20 通期	FY21 通期	YoY
売上高	3,417	2,959	-457
EBITDA	△ 125	2	+127
営業利益	△ 262	△ 86	+177
経常利益	△ 327	△ 80	+247
当期純利益	△ 427	△ 81	+346
◆半導体等部材不足影響除く			
売上高	3,417	3,212	-205
EBITDA	△ 125	95	+220
営業利益	△ 262	7	+269



- 売上高： モバイル/欧米向けは、スマホ液晶需要減により減少。一方、注力する車載、ノンモバイルは、半導体不足の影響を強く受けるも、高付加価値製品への需要強く増加
- 損益： 売上高減少も、製品ミックスの改善、コスト削減の継続、値上げ、円安効果により、EBITDA、営業利益が改善。営業外損益・特別損益の改善により、経常利益、当期純利益も大幅改善

製品ミックス改善・コスト削減・値上げ・円安効果により営業損失は前期比大幅縮小

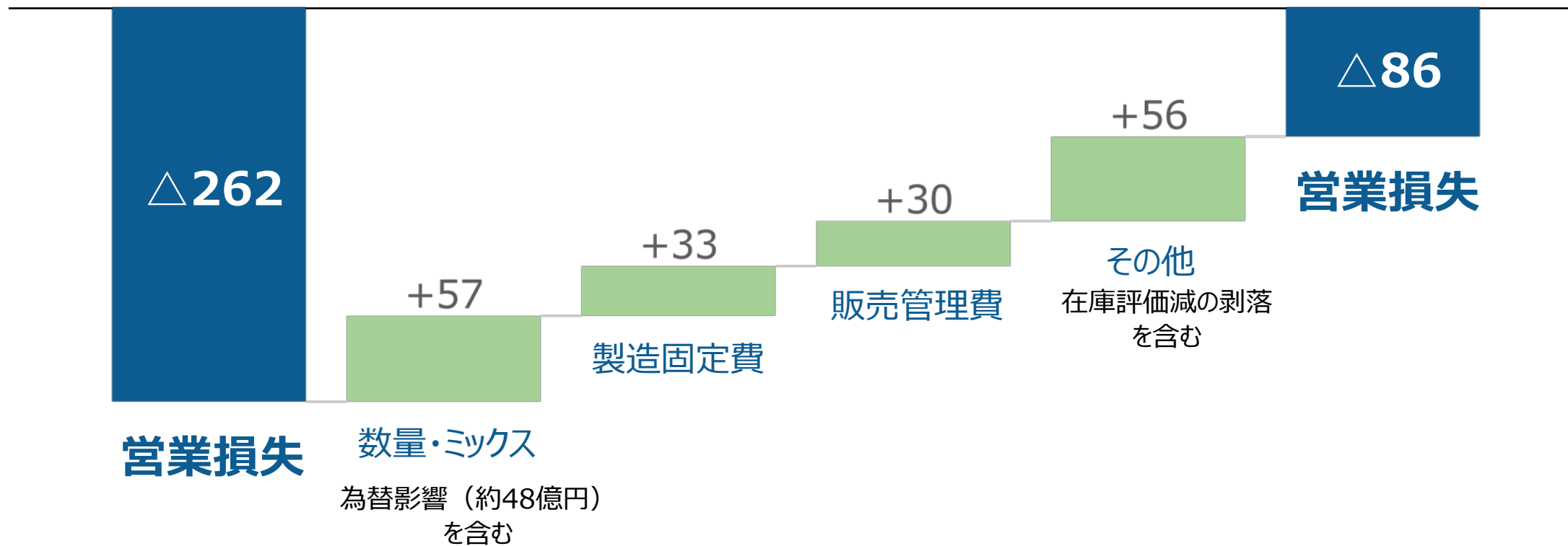
FY20

売上高: 3,417

FY21

(億円)

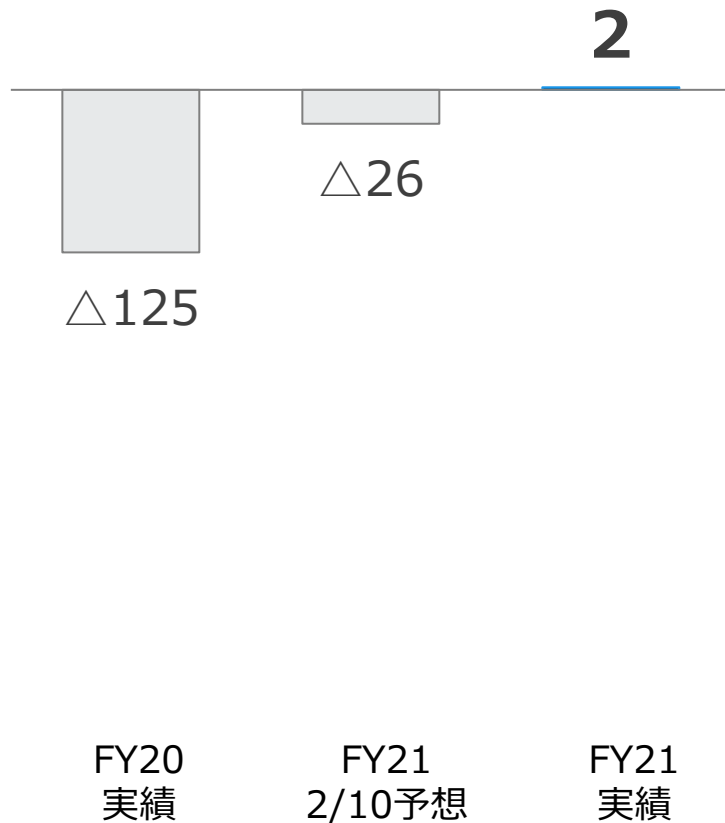
売上高: 2,959



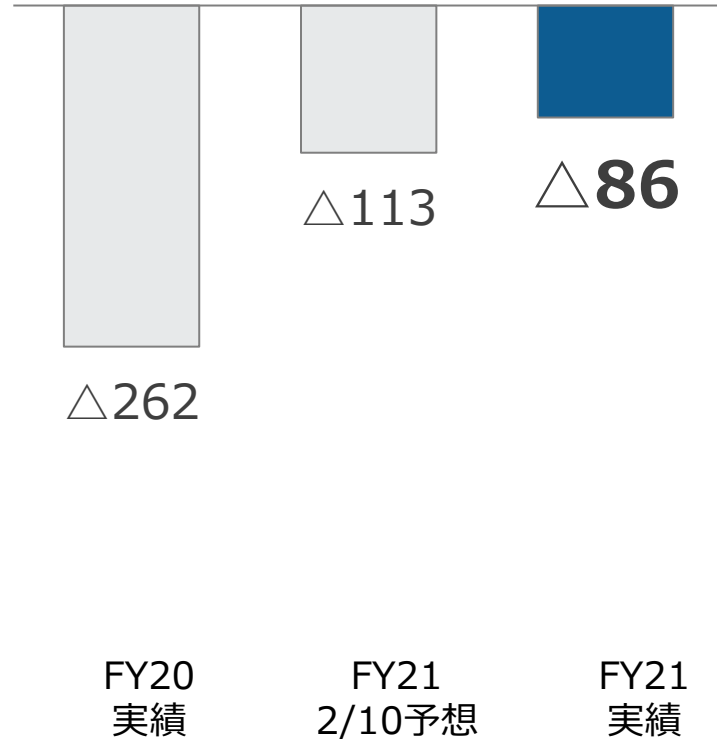
すべての利益項目で予想比改善、前年同期比大幅改善

(億円)

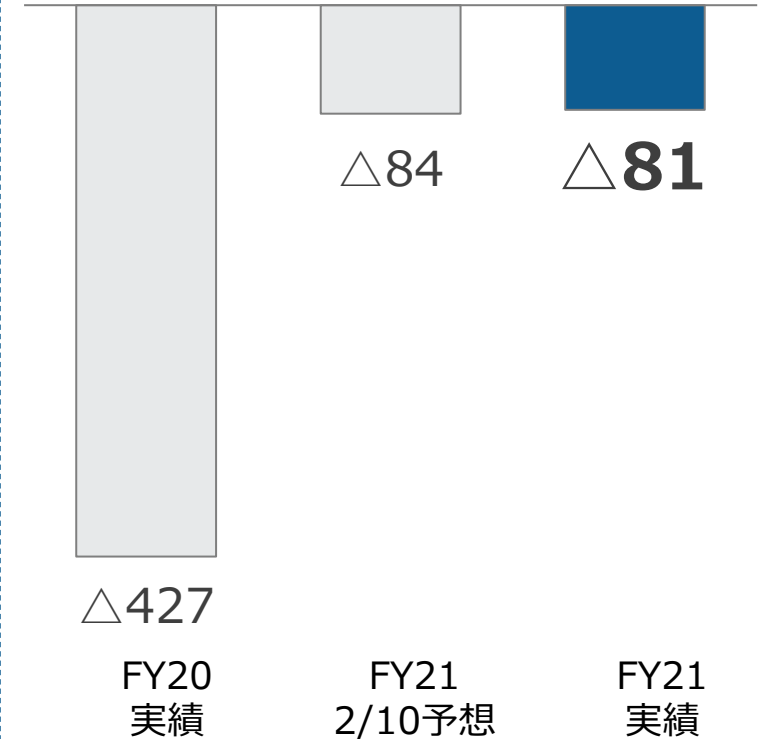
EBITDA



営業利益



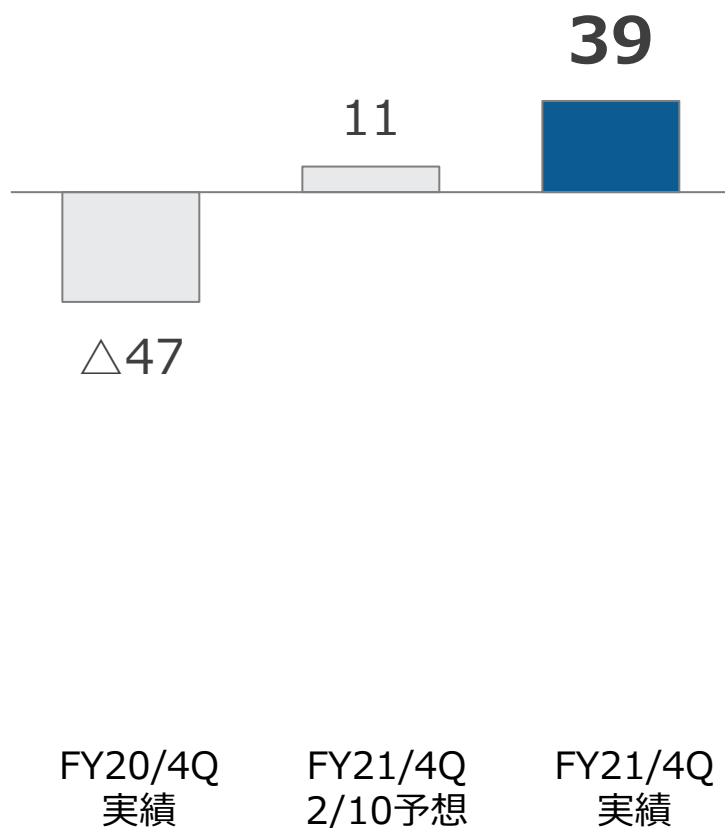
当期純利益



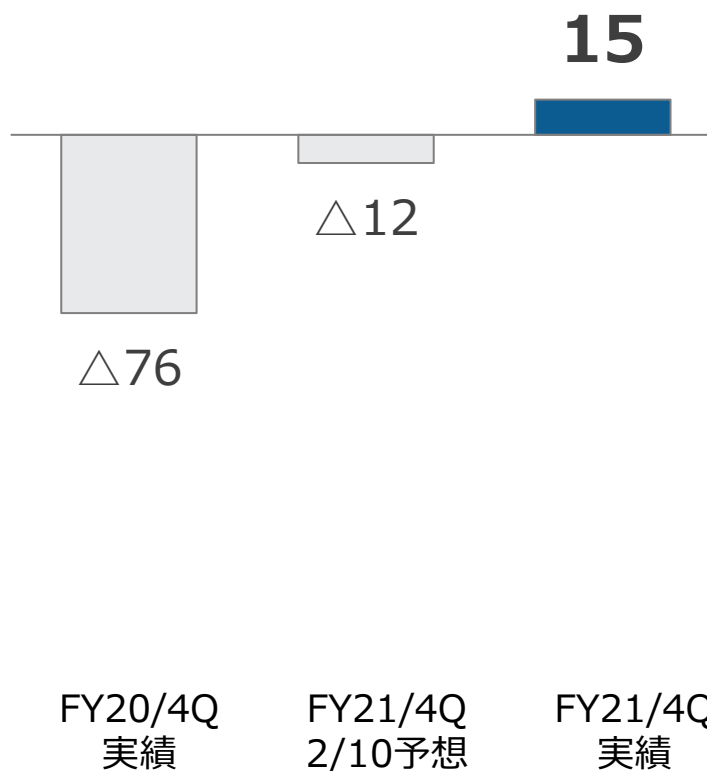
製品ミックス改善、コスト削減効果等により、EBITDA黒字化目標を達成

(億円)

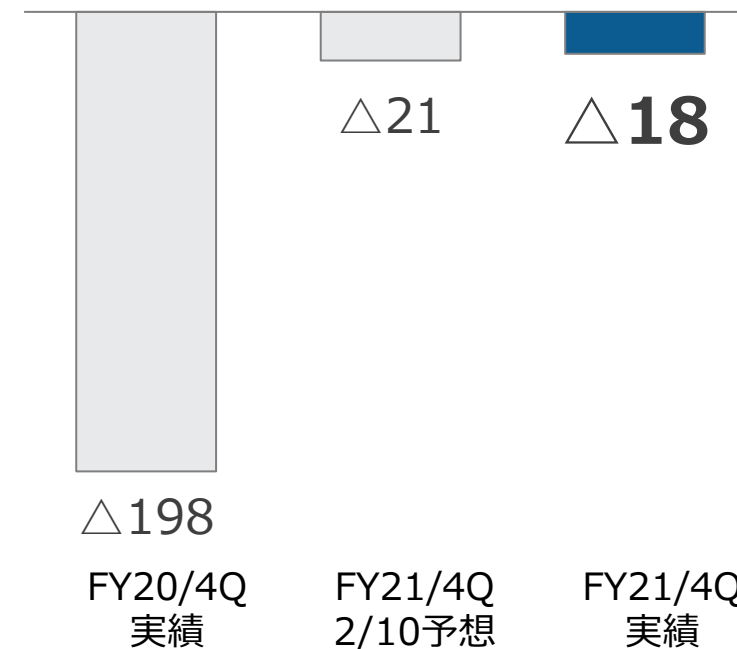
EBITDA



営業利益



四半期純利益





Japan Display Inc.

2022年度 業績予想

- 部材不足や部材・エネルギー・輸送費高騰、消費減退を保守的に見積もり、通期業績は売上伸長するも損益悪化を予想
- 1Qは、中国ロックダウンによる部材大幅不足・生産減及び一部製品の需要減を反映、3Q以降EBITDA黒字回復見込

(億円)	FY19	FY20	FY21	FY22				
	通期	通期	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
	実績	実績	実績	予想	予想	予想	予想	予想
売上高	5,040	3,417	2,959	625	923	896	848	3,291
モバイル/欧米	-	1,626	763	80	139	100	100	419
モバイル/中国・他	-	349	414	57	78	97	86	317
車載	-	881	1,069	358	397	407	385	1,548
ノンモバイル	-	562	714	130	309	291	277	1,007
EBITDA	△ 196	△ 125	2	△ 102	△ 17	14	13	△ 92
営業利益	△ 385	△ 262	△ 86	△ 125	△ 42	△ 12	△ 15	△ 194
経常利益	△ 578	△ 327	△ 80	△ 128	△ 45	△ 16	△ 19	△ 208
当期純利益	△ 1,014	△ 427	△ 81	△ 123	△ 48	△ 19	△ 23	△ 214

為替前提 1米ドル = 123円



Japan Display Inc.

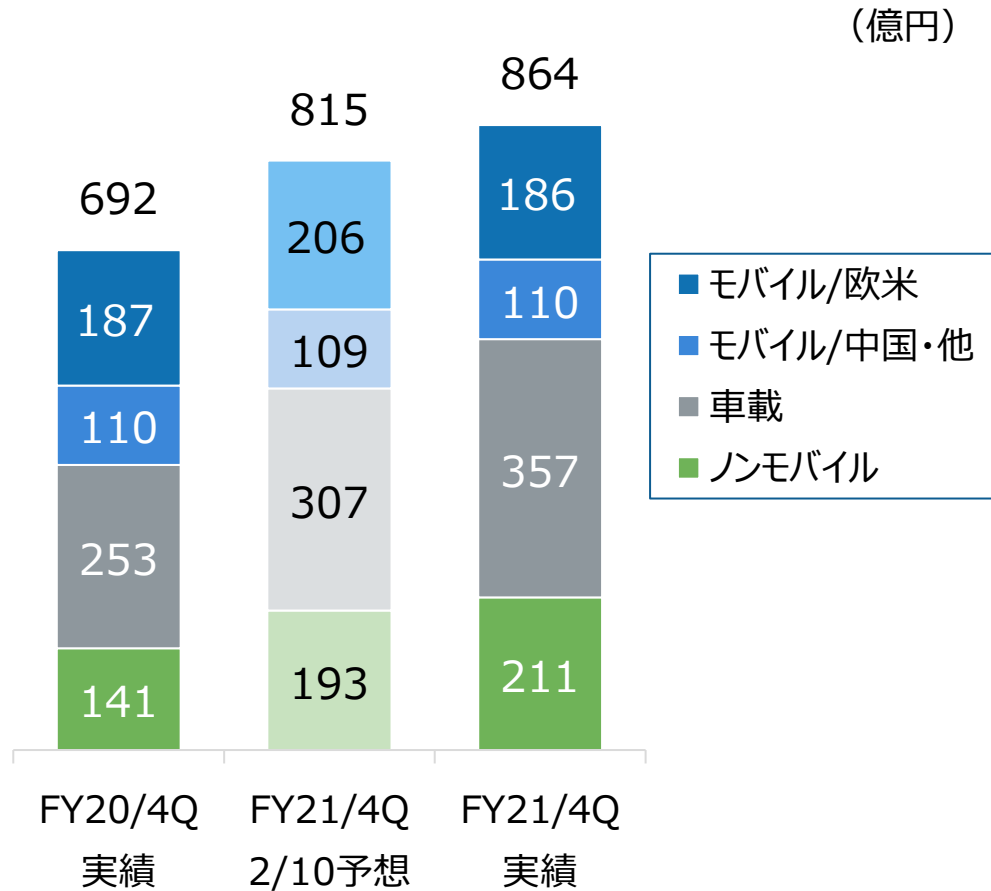
Appendix

半導体不足の影響が続くも、売上増・製品ミックス改善等により、損益は大幅改善

(億円)	FY20 4Q	FY21 4Q	YoY
売上高	692	864	+173
EBITDA	△ 47	39	+85
営業利益	△ 76	15	+91
経常利益	△ 67	21	+88
四半期純利益	△ 198	△ 18	+180
◆半導体等部材不足影響除く			
売上高	692	910	+218
EBITDA	△ 47	52	+99
営業利益	△ 76	28	+104

- 車載・ノンモバイルの出荷増、部材コスト増の売価への転嫁、円安効果等により、売上高増加
- 売上増に加え、製品ミックス改善等により損失は縮小。特別損益の改善により、四半期純損失は大幅縮小
- 2/10予想比：半導体不足影響に鑑みた保守的な業績予想に対し、生産への影響縮減、部材コスト増の販売価格への転嫁、資本金額の減少に伴う外形標準課税引当の戻入、円安効果等により、予想比改善

分野別四半期売上高



4Q 分野別売上高の状況 (3か月)

- **モバイル**： YoY ±0%、QoQ +14%
 - 前年同期比と同水準
 - 顧客の在庫調整により予想比若干減
- **車載**： YoY +41%、QoQ +35%
 - 部材不足の影響が続くも、需要強く大幅増収
 - 保守的に見積った半導体不足影響の縮減、部材コストの売価への転嫁により予想比増加
- **ノンモバイル**： YoY +49%、QoQ +9%
 - 知財収入増、ウェアラブル用OLED出荷増により、YoY大幅増収。VR用液晶は部材不足により伸び悩む
 - 部材不足影響を最小限に留め、予想比増加

前年同期比

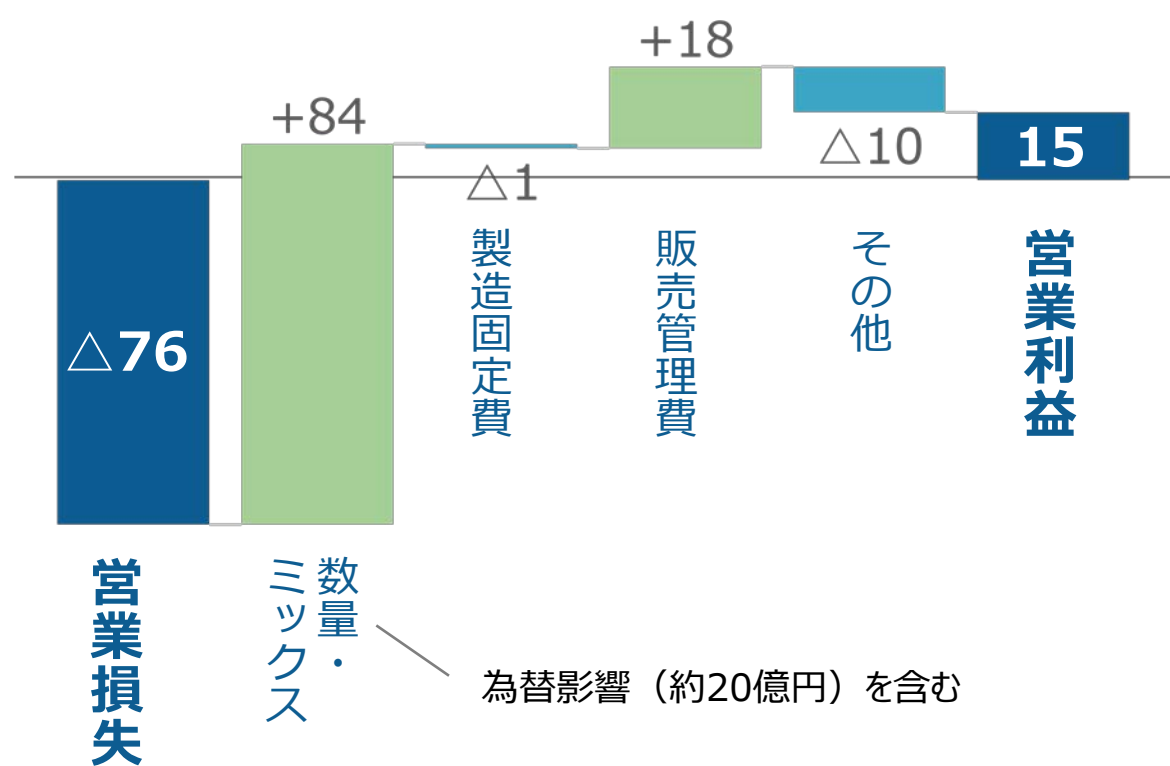
(億円)

FY20 4Q

売上高: 692

FY21 4Q

売上高: 864



直前四半期比

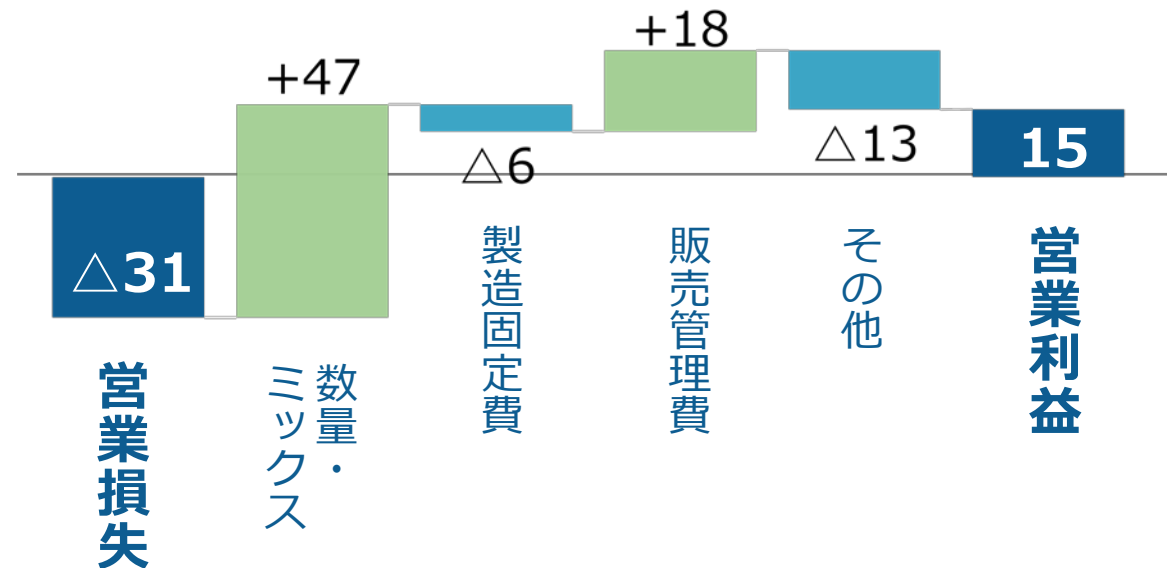
(億円)

FY21 3Q

売上高: 717

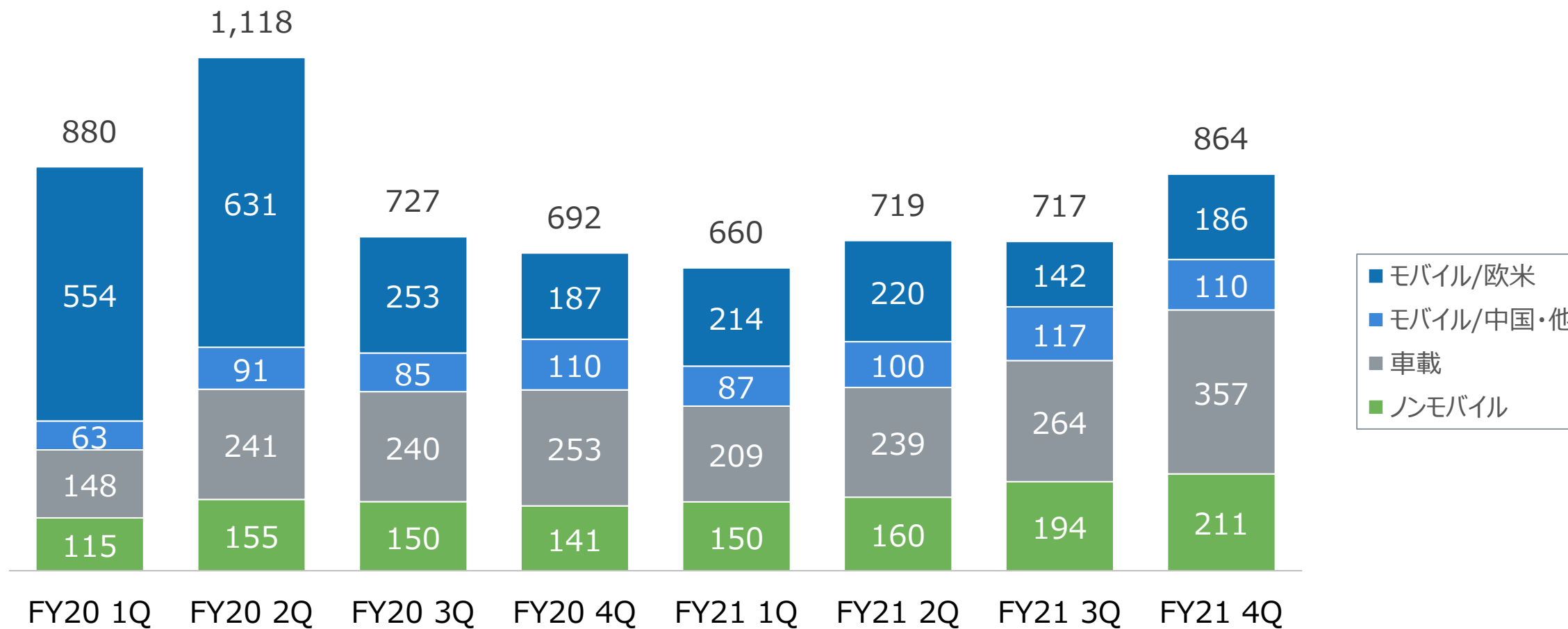
FY21 4Q

売上高: 864



分野別四半期売上高推移

(億円)



(億円)	FY20 期末	FY21 3Q末	FY21 期末	前年度末比	前四半期末比
現金及び預金	557	578	522	-35	-56
売掛金	312	323	563	+251	+241
未収入金	153	183	235	+82	+52
在庫	397	510	491	+93	-19
その他流動資産	43	50	54	+11	+4
流動資産合計	1,463	1,644	1,865	+402	+221
固定資産合計	787	749	717	-69	-31
資産合計	2,250	2,393	2,583	+333	+190
買掛金	374	494	590	+215	+95
有利子負債	971	749	750	-222	+0
前受金	19	53	33	+14	-20
その他負債	467	492	482	+15	-10
負債合計	1,832	1,789	1,855	+23	+66
純資産合計	418	604	728	+309	+124
自己資本比率	17.6%	25.2%	28.2%	+10.6 [°] ｲﾄ	+3.0 [°] ｲﾄ

(億円)	FY20 4Q	FY21 3Q	FY21 4Q	FY20 通期	FY21 通期	前年度比
売上高	692	717	864	3,417	2,959	-457
EBITDA	△ 47	△ 9	39	△ 125	2	+127
営業利益	△ 76	△ 31	15	△ 262	△ 86	+177
営業外損益 (△は損失)	9	6	6	△ 64	6	+70
経常利益	△ 67	△ 25	21	△ 327	△ 80	+247
特別損益 (△は損失)	△ 130	53	△ 27	△ 91	22	+112
税引前当期純利益	△ 197	28	△ 6	△ 417	△ 58	+359
当期純利益	△ 198	24	△ 18	△ 427	△ 81	+346
平均為替レート (円/米ドル)	106.1	113.7	116.3	106.1	112.4	
期末為替レート (円/米ドル)	110.7	115.0	122.4	110.7	122.4	

(注) 貸借対照表の「現金及び預金」の額と、キャッシュフロー計算書「期末現預金残高」の額との差異は、「預け金」です。

(億円)	FY20 4Q	FY21 3Q	FY21 4Q	FY20 通期	FY21 通期	前年度比
税引前四半期純利益	△ 197	28	△ 6	△ 417	△ 58	+359
減価償却費	29	22	23	147	88	-59
運転資金	△ 62	△ 5	△ 149	206	△ 231	-437
前受金	△ 5	△ 15	△ 21	△ 103	10	+113
その他	62	△ 24	△ 1	△ 64	△ 26	+38
営業キャッシュ・フロー	△ 174	6	△ 155	△ 231	△ 217	+14
固定資産の取得による支出	△ 10	△ 4	△ 23	△ 70	△ 72	-1
子会社株式売却による収入	0	76	0	0	76	+76
その他	△ 4	5	△ 10	△ 21	△ 3	+18
投資キャッシュ・フロー	△ 14	77	△ 33	△ 91	1	+92
短期借入金の純増減額	△ 2	0	0	△ 7	△ 201	-194
株式の発行による収入	193	0	110	242	359	+116
その他	△ 1	△ 5	△ 1	△ 33	△ 10	+23
財務キャッシュ・フロー	191	△ 5	109	202	148	-55
期末現預金残高	553	574	509	553	509	-44
フリー・キャッシュ・フロー	△ 183	2	△ 178	△ 302	△ 288	+13

(注) 「フリー・キャッシュ・フロー」は、「営業キャッシュ・フロー」と「固定資産の取得による支出」の合計額です。



THANK YOU

将来予測及び見通しに関して

本資料に記載される業界、市場動向または経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性および網羅性について保証するものではありません。また、本資料に記載される当社グループの計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における当社の判断又は考えにすぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外の個人消費その他の経済情勢、為替動向、スマートフォンその他の電子機器の市場動向、主要取引先の経営方針、原材料価格の変動等により、本資料記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。